

PAC 分析学会

第 7 回大会
プログラム・発表抄録集
2013 年 12 月 15 日（日）



和光大学

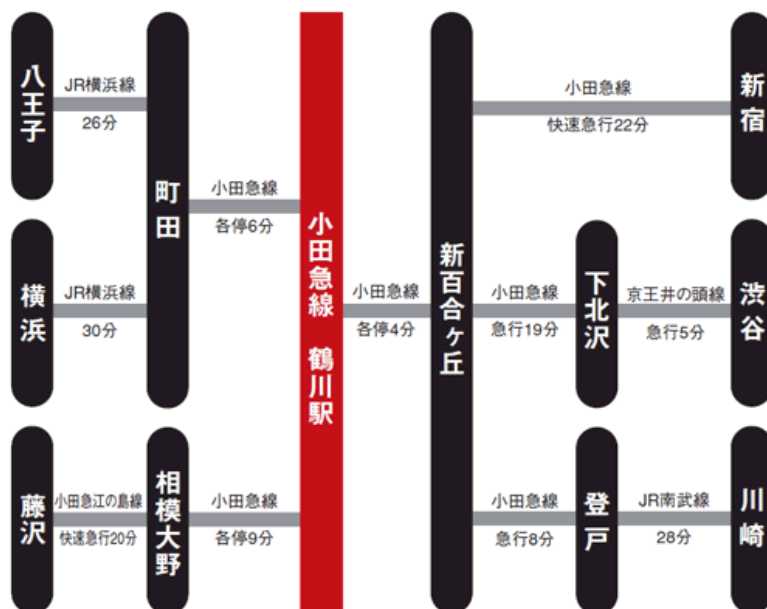
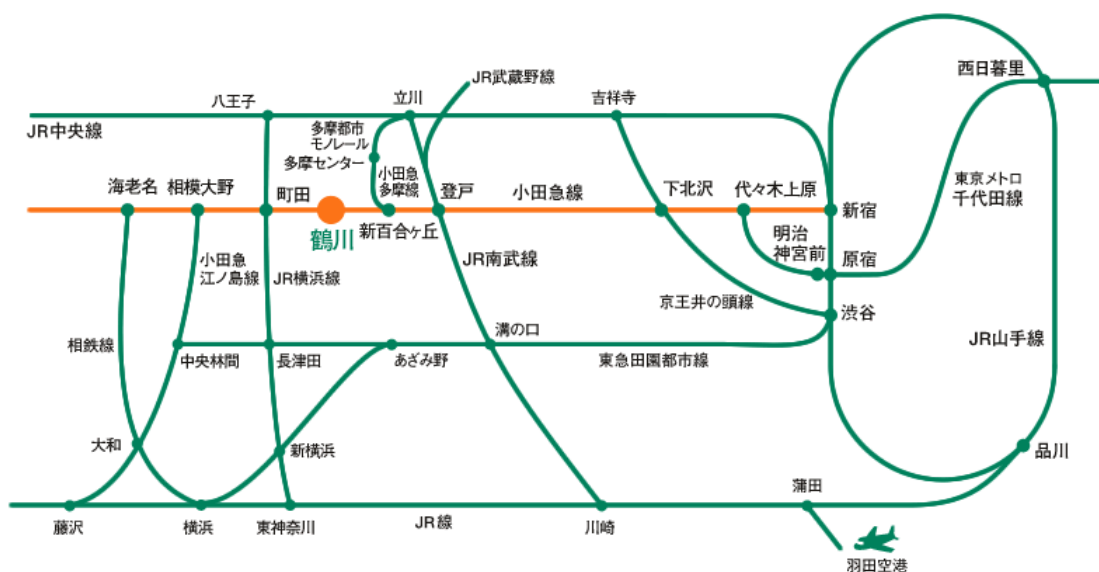
大会会場へのアクセス

和光大学 キャンパス

〒195-8585 東京都町田市金井町 2160 番地

TEL 044-989-7777 内線 5407 (伊藤研究室)

和光大学は、新宿駅から小田急線急行で新百合ヶ丘駅に乗り換え普通列車で2駅目の鶴川駅から徒歩で20分、タクシーで5~10分です。



※各路線での最短の乗車時間を示しています。
 ※時間帯により列車の乗り継ぎ編成が異なります。
 ※待ち時間は含まれていません。

鶴川駅から和光大学までの地図



キャンパスマップ



会場： J棟 301教室

大会参加者へのご案内

1. 受付

受付は大会会場（J棟 301 教室）前になります。事前に参加希望の連絡をされた方は受付で参加費等をお支払いいただき、参加証とプログラム・発表論文集をお受け取りください。

当日参加の方は当日参加申込書にご記入ください。その後、参加費をお支払いいただき、参加証とプログラム・発表論文集をお受け取りください。

2. 喫煙について

所定の場所以外での喫煙はご遠慮ください。（大会開催会場になっている建物内部には喫煙所はございません。）

3. 参加証（ネームプレート）について

参加証はお帰りになる際にお返しいただきますよう、お願い申し上げます。

4. 大会参加費について

本大会の参加費は以下の通りです。

学会員：一般会員 2000 円

学生会員 1000 円

非会員（当日一般）5000 円

非会員（当日学生）1500 円

懇親会参加費用：実費（懇親会場にてお支払いください）

発表者へのご案内

1. プログラム・発表論文集への論文掲載に加え，発表会場での発表によって正式発表と認められます。
2. 1 演題の発表時間は 20 分で，10 分間の質疑応答を設けます。係員が下記のようにベルを鳴らして時間を知らせます。
発表開始 15 分後（残り 5 分）・・・・・・・・ 1 鈴
20 分後（発表終了）・・・・・・・・ 2 鈴
30 分後（演題終了）・・・・・・・・ 3 鈴
3. 発表は座長の指示に従って進めてください。
4. 責任発表者が欠席した場合，発表取り消しとなります。連名発表者がいる場合には，大会事務局の承認を得て発表を代行することができます。
5. 当日配布資料がある場合にはその旨ご連絡ください。資料の印刷は大会会場ではできませんので，発表者が用意していただきますようお願いいたします（資料は 30 部程度ご用意願います）。

大会行事

- 12 : 30 ~ 13 : 00 参加受付
- 13 : 00 ~ 13 : 10 開会の辞（いとう大会長）
- 13 : 10 ~ 14 : 10 学会総会
- 14 : 10 ~ 14 : 20 休憩
- 14 : 20 ~ 16 : 00 大会企画
レクチャー（内藤哲雄先生）+語り合いセッション
- 16 : 00 ~ 16 : 10 休憩
- 16 : 10 ~ 17 : 10 研究発表 座長：岸 太一（東邦大学）

発表 I

タスク型グループワークへの日本語学習者の参加態度に関する考察-大学日本語専攻の中国人留学生への PAC 分析から-

黄 均鈞（一橋大学大学院言語社会研究科博士課程）

発表 II

「就職活動へのやる気」を強めるもの、弱めるもの-女子大学生 1 名の事例-

松浦美晴（山陽学園大学）

- 17 : 10 ~ 17 : 20 閉会の辞（内藤理事長）

- 18 : 00 ~ 懇親会（「銀蔵」にて）

発表抄録

タスク型グループワークへの日本語学習者の参加態度に関する考察

—大学日本語専攻の中国人留学生への PAC 分析から

発表者氏名: 黄均鈞

(所属) 一橋大学大学院言語社会研究科博士課程

key words: タスク型グループワーク、参加態度、中国人日本語学習者

はじめに

近年、日本語教育の分野において、複数の学習者が「ある共通の目標」をもって課題に取り組み、互いに「協力」し、「助け合い」、「相互介入」するプロセスを通して創造的な成果を得ることを目標とした「協働学習」(Johnson, Johnson, & Holbec 1993; 舘岡 2005) は注目を集めている。だが、澤邊 (2012) ではアジア系留学生の協働学習への参加態度に関するこれまでの論考を言語不安という角度から考察し、協働的な学びにおいては学習者がコミュニケーションに伴う不安が生じる可能性があるとして指摘し、学習環境の差異は、活動参加者の異なる心的状態をもたらす可能性が十分あることが示唆された。

本稿は 3 名の「大学日本語専攻の中国人留学生」(以下、留学生) が来日した後に参加した協働的な授業活動—「タスク型グループワーク」(以下、タスク型 GW) の際の参加態度の構造を、PAC 分析を用いて解明し、また態度の変化に関わる要因について分析する。

方法

被検者 (もしくは被験者): 3 名。全員 2012 年来日 (日本語能力試験 1 級合格者)、これまでにタスク型 GW の参加経験を有しない。また、今回の 3 人は日本語母語話者 1 人を含む同じグループに属していた。

提示刺激: 「あなた、今回のグループに参加した時、どのような気持ちで活動や作業に取り組んできたのか。また、どんなことを感じながら、自分が参加していたのか。頭に浮かんできたイメージや言葉、思い浮かんだ順に番号をつけてカードに記入してください。」

手続き: 調査は協力者の同意を得た上で、タスク型 GW 活動 (2013 年 7 月中旬) が終わった後の 2 週間以内に、実施し始めた。イメージの表出と距離行列の作成の後、HALWIN を用いてクラスター分

析にかけた。その後すぐ、インタビューを行った。イメージ表出のための教示文は、口頭と印刷された文章の両方で提示した。

使用分析ソフト: HALWIN

結果

留学生 A の事例

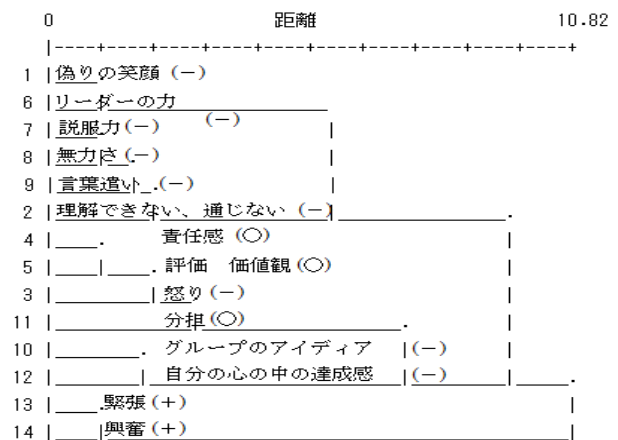


図 1 留学生 A のデンドログラ

留学生 B の事例

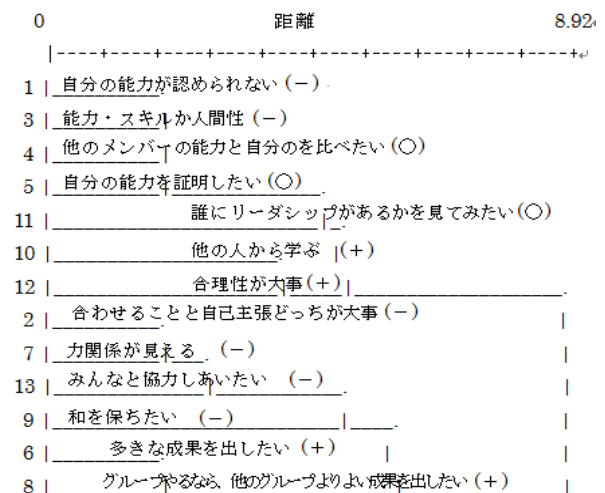


図 2 留学生 B のデンドログラ

留学生 C の事例

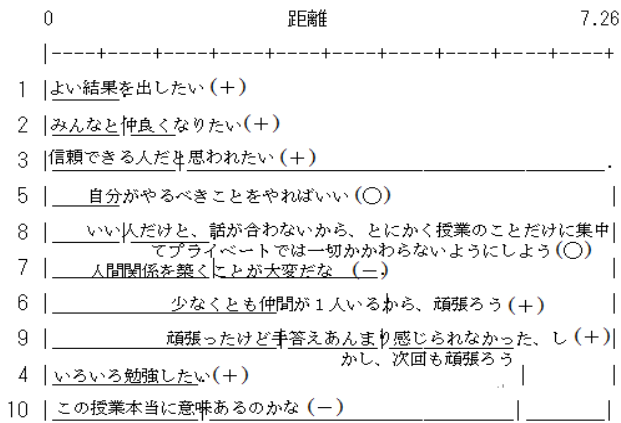


図3 留学生Cのデンドログラ

総合考察

他者との関係性から態度を捉える

Sherif & Cantril (1945) では、態度は一定の対象または状況に関連して形成されるものであり、常に主体—客体関係、即ち、自己対他の存在という関係(筆者傍点)を含んでいると指摘した。筆者はそうした態度への解釈の仕方、特に、「主体—客体関係、自己対他の存在という関係」の概念を援用し、タスク型グループワークへの参加態度を以下のような定義に基づき、考察を行いたい。

グループ活動への参加態度とは、グループ活動に参加する際の状況(文脈)に関連して形成され、また、常に自分と他者(他のグループメンバー)という存在の関係を含んでいる、ということである。

参加者たちは活動初期に、自分が持っているタスクへのビジョン、自分の授業理念をこの活動を通して実現したい抱負、またメンバーに自己を尊重してほしいという期待を持ちながら、積極的な参加態度で活動に取り組んできた。しかし、実際の活動が始まると、留学生Aは、グループメンバーとのコミュニケーションを通じて、他者との価値観(授業理念等)の違いに気付き、違和感を覚え始めた。そこで、コミュニケーションを試みたが、それでもうまく他者との意思疎通ができず、自分の授業理念は他のメンバーにうまく理解されず、グループにおける自分の居場所がなくなり、孤独な立場に陥った。また、留学生Bは、グループ内の力関係に気付き、異なる意見を述べることによって、グループのメンバーに疎外されるのを恐れ、やむを得ず全体の“和”を保ち、議論に基づかない妥協をした。その結果、グループ内の意見を述べることに熱心に取り組んでいた態度もがらりと変わり、異なる意見を控える⇒異なる意見

を抑える、のように段々と消極的な参加態度に変わってきた。留学生Cも、気に入らないメンバーとの出会いをきっかけに、順風満帆なグループ活動への期待が外れ、グループの前途に失望を感じ、グループを手放し、1人で何とかしようと思うようになった。だが、その後、仲間メンバーの頑張る姿勢に触発され、気を取り直し、グループのために頑張ろうという積極的な態度をもう一度取り戻した。

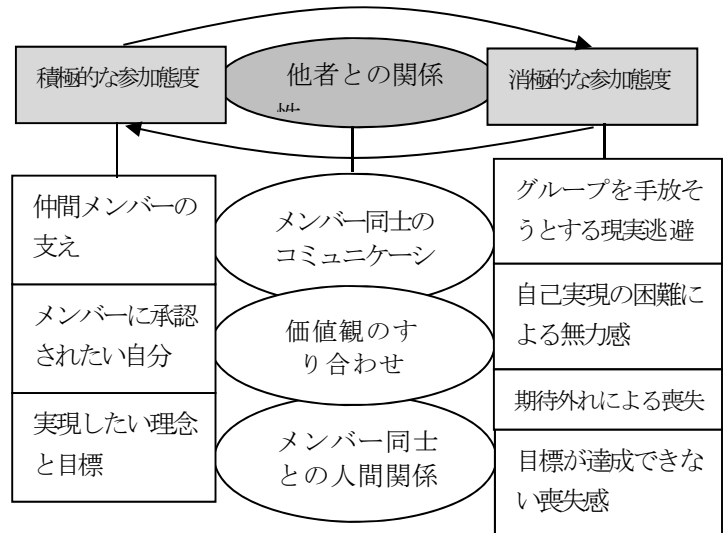


図4 他者との関係性から捉える参加態度

つまり、上図のように、協働的な活動に参加する留学生の参加態度は、常に他の参加者との関係性の変化と関連し、また、そうした関係性が他の参加者との相互作用を通じて構築したり、調整による再構築をしたりし、可変的なものである。そうした可変的な関係性は参加者個々の参加態度の形成に大きな影響を与え、参加態度の変化と連動していると考えられる。

文献

Sherif, M & Cantril, H.: The psychology of attitudes. Psychol.Rev., 1945, 54, 306-314
 黄均鈞 (2013) 「日本語教育実習における実習生のコメント力の向上に関する考察—実習の「場」と実習生の「意識」から見る—」『待遇コミュニケーション研究』10
 内藤哲雄 (1997) 『PAC 分析実施法入門「個」を科学する新技法への招待』 ナカニシヤ出版
 中村陽吉 (1999) 『集団の心理 グループダイナミックス入門』大日本図書
 元田静 (2006) 「協働的学習活動に関わる日本語学習者の情意的・社会的変数自尊感情雰囲気モラルを中心に」『東海大学紀要』26, 19-32

「就職活動へのやる気」を強めるもの、弱めるもの

-女子大学生 1 名の事例-

松浦美晴

(山陽学園大学総合人間学部)

key words: 大学生, 就職活動, 時間的展望

2013 年現在において、大学生が「就職活動」を積極的に行うことが、大学生活から職業生活への移行に必要である。しかし、就職活動を行えない、あるいは中断してしまう大学生が存在する。このとき、「進路未決定」(下村, 2001)等の内的状態での未決定状態と、行動の側面としての就職活動との乖離の存在が指摘されている(例えば安達, 2004; 堀・濱中・大島・苅谷, 2007)。

Lewin (1951) をはじめ複数の時間的展望の理論を動機づけとの関連においてレビューした白井 (1995) は、未来や過去の展望が現在の行動を統制し直接的状況からの自由を獲得しようという現在志向的な時間的展望の理論と、現在の行動を目標実現の手段として意味づける未来志向的な時間的展望の理論があるとした。就職活動において大学生が目標と手段の関係のような合理的な判断のみで動くのであれば、内的状態と行動の乖離は生じないであろう。

本研究は、大学生が就職活動を行わない要因と、そこに関わると考えられる現在志向的な時間的展望を探ることを目的とする。

方法

対象者

文系の学部に所属する女子大学生 1 名であった。3 年次在学中の 12 月に就職活動を開始した。大学が春期休暇に入るとともに就職活動をしなくなった。4 年次在学中の 6 月ごろからハローワークに通っていた。4 年次の 1 月に、そのころ関心を持ち始めた介護業界の企業が合同説明会に参加していることを知り、説明会に出た。4 年次 3 月中旬に、介護関連企業への就職を決定し、活動を終えた。就職活動初期には活動に積極的に取り組むことができおらず、4 年次在学中の 1 月に志望が固まってから積極的に取り組むことができた学生といえる。大学卒業直前の 2 月上旬に、PAC 分析を 2 回に分けて実施した。1 回目の実施約 1 時間後に 2 回目を実施した。調査時点では、介護職への就職活動に取り

組んでいるところであった。

第 1 回実施手続き

内藤 (1997) に従った。刺激文「就職活動において、あなたのやる気を強めたり弱めたりしたものと、どのようなものがありましたか。頭に浮かんできたイメージや言葉を、思い浮かんだ順に番号をつけてカードに記入してください。」を口頭と文書で提示し実施した。

第 2 回実施手続き

第 1 回で得た自由連想項目と時間項目「自分の過去 (就職活動開始前)」「自分の現在 (就職活動開始から大学卒業まで)」「自分の未来 (大学卒業後)」との距離評定、時間項目間の距離評定を行い。デンドログラムを作成した。

使用分析ソフトは KyPlot 3.0 であった。

結果

第 1 回

第 1 回のデンドログラムを図 1 に示す。

クラスター 1 については「就活への拒否」「面倒」「人と会うのにイライラし、誰しもウザイ」ということであった。クラスター 2 は、家族や友人の支え」「自分のため」と語られた。

2 分法的な考え方 2 つのクラスターの比較において、実施者がプラスマイナスのイメージをたずねていないにもかかわらず、クラスター 1 が「明らかにマイナスのイメージ」、クラスター 2 が「プラスのイメージ」であり、すべてが正反対と語られた。「キャリアセンター」と「親」、「KY な友人」と「はげましてくれる友人」のように、周囲の他者を 2 つに分類してとらえており、クラスター 1 に含まれる他者との間に心理的な障壁のようなものを自ら作っている。＜親は肉親やから、自分をちゃんと知ってくれてるから、キャリアセンターはただウザイから(笑い)、センターはもう、なんも考えてないっていうか…自分らーのことしか考えてないみたいなの＞。好き嫌いがはっきりしている。＜まあ、好きか嫌いかですね。大学入って、さらに極められたっていうか＞。

自分が自分に対して持っているイメージが壊れることが嫌 スーツを着ていて倒れた経験により対象者が自分自身に対して持っていたイメージが壊れた。<2年か1年のときに、電車の中で倒れたんですよ><自分まあ、ねえ…倒れるイメージないんで、倒れて自分でショックでしたよね>。

ハローワークへ行くことと大学キャリアセンターへの嫌悪 ハローワークへ対象者の姉が既に行っていたことなどから行くようになった。<姉貴が先に行って、ちゃんと話聞いているから…あそこはこういうとこで、こういうこともしてくれるしー、みたいなの。あ、ほな、安心やなって思って、そしたらさらに、担当者が姉貴と一緒にやったからー、あ、もう、これ、行けるわ、みたいなの。><ハローワークのほうが、ほんとの的確なアドバイスもくれるし><他者受容してー、まあ、他者理解？して、なんか…少し、自分の意見もゆうてくれるんでー、キャリア(センター)みたいなの、「いや、も、それはどうかと思う」とかは言わないんでー。

第2回

第2回のデンドログラムを図2に示す。

ネガティブな「過去」、ポジティブな「現在」と「未来」 クラスタ1は「(第1回に続き)これまた、マイナス」「就職活動に対する抵抗」「さっき(第1回)と変わらない」「やりたいことを見つけた」「やっと見つけた」ことによって「前の自分とは、違う」、「したいもの、なりたいたいのものがな」かったことは過去になったとのことであった。クラスタ2は、「未来(大学卒業後)」「現在(就職活動開始から大学卒業まで)」も含めて「ポジティブ」「以前の自分とは違う」。<なーんでしょうね…どんなところ似てるか…真逆ですよ(笑い)…真逆っつうか…(笑い)ま、ほとんどがね、悪口ですもんね、なんか、自分がすげえ、不快に感じたこと…を、上は書いてて、下のほうはもう、…うん、自分にとって…ポジティブになれる要素っていうか…いいなって思えた>。クラスタ2の下部4項目は、すべて介護職につながるイメージであった。<「自分の現在」もー、今は介護のことを考えててー、…でー、介護職のほうをー、探してるのが今の「自分の現在」でー、「自分の未来」はー、いずれ、ケアマネージャーとか介護士として働いてる自分をイメージしてます。「おしゃれをするために」はー、さっき(第1回)も言ったんですけどー、そのー、刈り上げとかも、そうい

う髪型とか><この4つを見てるとー、…介護、って字が、バーン、て。>。

別の選択肢 一時期営業職に就くことも考えたことについて語られた。<これが営業とかだったら…うん、たぶん、こんなー、出てこないです、あっさり…あ、営業は向いてるとは言われたけども…ん、やっぱ、介護かなー、人のためになるって、><おとんにも言われたんですけど…あの一、腕上げてもー、違うところに営業に行けば、また最初っから、まあ、あの人(父親)が営業行ってたんで、だから、意味ねーんよみたいなの>。

感謝される介護職のイメージ 営業職の気になっていた企業があったが、違うと思った。「ありがとう」と言われるなら、その言葉がそこですぐほしい。過程よりも結果がすぐほしい。しかし、その企業は言葉をすぐ得られる仕事ではない。<(自動車メーカーが)どういう人がほしいっていうのは、自分、もう、ばっちり入ってたんですよ。も、あてはまって、お客様からありがとうって言われることが好きな人…まさに自分やなあって思って…だけど自分の場合はー…なんかすぐその場でー…そういう、ありがとうごか、そういう言葉がほしくて><こういうことしてー、なんとか取って、っとか言われて、…はいどうぞーって、ありがとう、その、すぐの、返事が、ほしいんですよ。><営業ってー、結果すぐに出ないじゃないですか。でも、介護ってー、結果すぐに出るじゃないですか…だから、その違いとかですかね。…ま、あとは笑顔が見たいとかね>。

周囲からの支持 介護職に就くことは周囲の人から支持された。<(友人に)「まあ、うち、介護…に入ろうと思っとる」って言ったらー、「えー、意外?意外?」って言ったらー、…「あー、意外じゃけど、でも…なんか、しっくり、くる」って言われて、「えっ」なんて、「え、だって!さん、なんだかんだ言って、おじいさんおばあさん、大事にしとるが」って言われて。はっ、こいつ、見てくれとる、と思って。><(介護職に就くとブログに書くと)大体の人が、その考えってほんま大事よな、みたいなの、あたしもそれ、いつかしたい、みたいなの…なんか、そういうの言われると、よっし、介護選んでよかったー、みたいなの(笑い)>。

過去の経験と大人へのネガティブなイメージ 大学キャリアセンターのネガティブなイメージに関して、小学校時代の経験が語られた。<

小学校のときに、も、あることが起きてー、…で、教師にぶたれてー…自分が、まっ、トラウマですよ…まあ、それもあっ…て、そこから大人が大嫌いー、信用もしないですー、> <昔から嫌いだったような、大人のーキャリア(センターの人)、(中に)含まれます。>。

ハローワークとの対比で語られる大学キャリアセンターでの不快な経験 <キャリア、もう、速攻、就活の話みたいな…ハローワークは、それじゃ、ないんですよ。><なんか言えば、もう倍にして返ってくるみたいな、ま、苦痛ー、みたいな。以前、1回、怒られて、ちっ、めんどくせえなあ、と思ってずーっと携帯いじってましたもん。>。

「女って感じがするのが嫌」 <スーツ着てるのなんか、すげえ、女って感じするじゃないですか、やなんですよ、それ…まじ、女で、だから、友だちとかが着てるのはいいですよ…(友人)Cとか、すげえガリーな服装ですけど、内心はぜってえねーなーと思いつつ見えます。自分の仲では、やなんすよ、そういうのが。スーツじゃなかったら、たぶん、普通に(就職活動に)行ってますよ。>

「友人の内定…」についての複雑さ <まあ、言い方にもよりますけどね。あ、決まったんよもう、って、さらっと言われたらー、あ、そうなんやー、と言うけどー、決まったんよーとか言われたらー、やもう、ほんまわかったけ、みたいな、ほんま、いいからみたいな、(笑い)ってなりますね。はーい、そんなん、過去です、あ、も、さよならー、と。>。

動けない自分 クラスター1の「友人から就職に関して聞かれたとき」について、自分の進路を「自分の中でー…探してるけど、出てこない」というイライラが語られた。<どっちにしろ、聞いてほしくないんすよ。なんか、も、黙ってて(!)ってなるんですよ。うーん…ま、(話を)したくないですもん…なんかー、聞かれてー、まあ、言う人もいるでしょうけど、うーん…ま、たぶん、自分の場合は受けてないから、ってのもあるんですよ。ないからー、答える、あれも、ないし…や、みんなは大体、え、ここと、ここ、受けて今、結果待ちー、とか言うじゃないですか、ま、それもないし…どういこうとこに行きたいとかもないしー、やりたいものもなかったし、だから、自分の中でー…探してるけど、出てこない、そのイライラもプラスされて、や、もう、自分、今、探しとるけん、

なんも言わんでくれるみたいな、口、出すなく(!)、みたいな…たぶん、それが、もうトリプルパンチぐらいでー…こいつー、から、聞かれたんでー…ん、もう、不快な、不快だったんですよ、自分の中で。>。

デンドログラム全体を見て デンドログラム全体のイメージは、「嫌なものは嫌、いいものはいい」という自分の性格が出ているとのことであつた。<見たからに。…嫌なもんは嫌やし…なんか、いいものはいいし、みたいな…なんか、自分の性格丸々出てるみたいな、うん、まんまって感じ。極端なんですよ、自分の性格が…もう、好きか嫌いかなんですよ、>。

第1回との比較 第1回ではあやふやだったが、第2回では「自分のっていうもん」が見えた、やりたいこと=介護、と「確信している」。デンドログラムにおける「友人がはげましてくれたとき」以下の項目が、自分の中で「ピーンときた」、と語られた。<こっち(第1回)では、特にそれ、さっきの、介護とか、出なかったじゃないですか…まあ、自分のやりたいことが、介護が、見つかってー、とかは言いましたけど、たぶん、…だけど、こっち(第2回)ではー、確信してるんですよ。ああ、ほんまや、みたいな、自分、介護や、みたいな…その、なんか、…ね、おしゃれもしたい、…やっぱ、介護、みたいな、なんか…ここが、結構、1番…自分の中で変化かなーて思いましたね。<実施者 下の4項目>はい。や、それプラス、「友人がはげましてくれた」と、「親にしかられた時」…まあ、この6項目が…うん…自分の中で、…うん、なんかピーン、ときた>。

総合考察

対象者は、肯定的な、自分を支持・尊重するもの(こと)、否定的な、自分を傷つけ脅かすもの(こと)を分けてとらえ、同一の物事にはどちらかの態度しか持たない。否定的なもの(こと)に対しては回避の動機づけしか生じないため、肯定的なもの(こと)が現れ接近の動機づけが生じるまで動けない(就職活動ができない)と考えられる。PAC分析実施時において、対象者は、介護職を目指すという自分の選択を肯定し、より動機づけるために、未来のイメージをより肯定的に描こうとしていることがうかがえた。

また、否定的な過去と肯定的な未来が現在の動機づけを形作るだけでなく、2分法的なも

の(こと)のとらえ方が過去の経験においても同様であったことが語られた。「就職活動」は、こうしたとらえ方が現れる状況の1つでしかない。したがって、「就職活動」のみを切り離し積極的な活動が行えるよう援助することは難しいのかもしれない。就職活動において顕在化されると考えられる、個人の物事のとらえ方を、前もって把握することを、今後検討する必要がある。

文献

安達智子(2004). 大学生のキャリア選択——その心理的背景と支援 日本労働研究雑誌, 533, 27-37.
堀 健志・濱中 義隆・大島 真夫・苅谷 剛彦(2007). 大学から職業へ III その2: 就職活動と内

定獲得の過程 東京大学大学院教育学研究科紀要, 46, 75-98.

Lewin, K. (1951). Field Theory in Social Science Harper & Brothers (レヴィン, K.・猪股佐登留(1956). 社会科学における場の理論 誠信書房)
内藤哲雄(1997). PAC分析実施法入門「個」を科学する新技法への招待 ナカニシヤ出版
下村英雄(2001). 進路選択 堀洋道(監修)・吉田富二雄(編) 心理測定尺度集II 人間と社会のつながりをとらえる<対人関係・価値観> サイエンス社 334-364.
白井利明(1995). 時間的展望と動機づけ-未来が行動を動機づけるのか- 心理学評論, 38, 194-213.

(Matsuura Miharu)

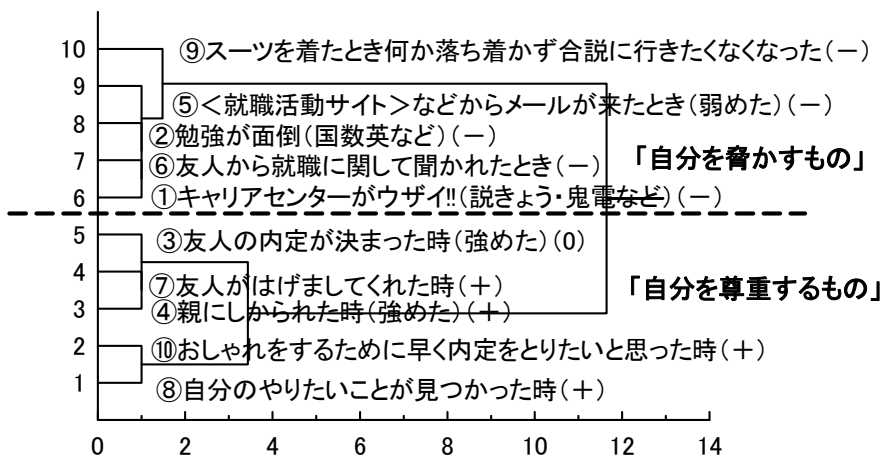


図1 第1回のデンドログラム (縦軸数字は重要度順位、丸数字は連想順)

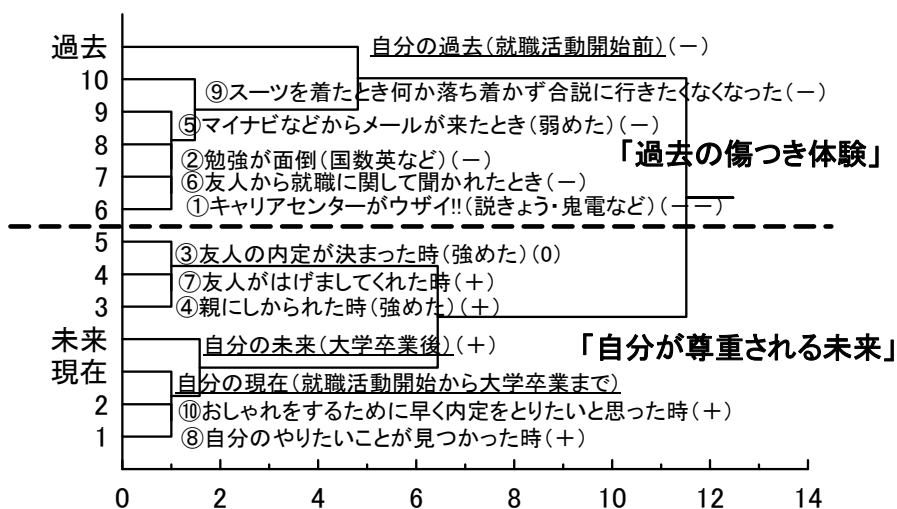


図2 第2回のデンドログラム (縦軸数字は重要度順位、丸数字は連想順)